

「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」を策定するための地域福祉アンケート

調査結果報告書（単純集計版）

高野和良（九州大学大学院）

1. はじめに

本地域福祉アンケートは、次期「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」の策定にあたり、市民に対して、日常生活や地域に関するごく身近なことがらや、今大切なこと、必要なことについて率直なご意見をうかがい、今後の計画策定過程において基礎資料とすることを目的として、実施されました。この報告書（単純集計版）では、主に単純集計結果を記載しました。

山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画の策定にあたって、これまで4回の社会調査が実施され、本調査は5回目となります。過去の調査は、『「山口市地域福祉計画」作成のためのアンケート』（平成14（2002）年12月実施。以下、2002年調査と略称）、『「山口市地域福祉計画」作成のためのアンケート』（平成20（2008）年2月～3月に実施。以下、2008年調査）、『「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」を策定するための地域福祉アンケート』（平成25（2013）年2月～3月に実施。以下、2013年調査）、『「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」を策定するための地域福祉アンケート』（平成29（2017）年2月28日～3月25日に実施。以下、2017年調査）です。

今回使用した調査票も、これら4調査と比較できるように、質問項目は基本的に共通としましたが、2020年初頭から続く、新型コロナウイルス感染症の拡大は、市民の健康や暮らしに影響し、社会生活へ影響を及ぼしていることから、この間の暮らし向きの評価、感染症拡大に伴う不安感や悩み、それらの相談先を確認することとしました。

2. 調査の概要

『「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」を策定するための地域福祉アンケート』（以下、2022年調査）は、次のように実施されました（なお、使用した調査票、自由回答一覧は、別途作成する報告書の巻末に掲載予定です）。

・ 調査の概要

実施時期	2022年2月28日～3月15日
対象者	18歳以上の市民
対象者抽出法	市内21地域別に年齢を9段階区分として無作為抽出
調査方法	郵送法（配付回収を郵送で実施）
調査対象者数	4005票
回収数	1637票
回収率	41.0%

今回の2022年調査の回収率は41.0%でした。過去の回収率と比較しても（2002年調査43.1%、2008年調査40.5%、2013年調査43.3%、2017年調査41.4%）、ほとんど変化はなく、郵送法による調査としては決して低い回収率ではありません。

しかし、回収率が半数弱であることは、後述するように性別、年齢層別にやや偏りをもたらしています。このため、結果の解釈には一定の注意が必要です。

3. 単純集計結果

問1 あなたは「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」という計画をご存知でしたか。

地域福祉計画の認知			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
知っていた	280	18.4	18.4
知らなかった	1243	81.6	100.0
合計	1523	100.0	
無回答	113		
合計	1636		

回答者の81.6%が「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」を「知らなかった」と回答しており、「知っていた」を選択した回答者は18.4%に留まりました。

今回の認知度(18.4%)は、2008年調査(18.6%)、2013年調査(18.9%)、2017年調査(17.4%)と比較しても、ほとんど変化はありませんでした。

問2 あなたの性別は、どちらですか。

性別			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
男性	686	42.0	42.0
女性	947	58.0	100.0
合計	1633	100.0	
無回答	3		
合計	1636		

回答者のうち42.0%が男性、58.0%が女性でした。男性の回答者と比較して女性の回答者の方がやや多いことがわかりました。

問3 あなたの年齢をご記入ください。(令和4年3月1日現在)

年齢_10歳区分			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
10代	26	1.6	1.6
20代	69	4.2	5.8
30代	131	8.1	13.9
40代	213	13.1	27.0
50代	230	14.1	41.1
60代	329	20.2	61.4
70代	372	22.9	84.3
80代	218	13.4	97.7
90代以上	38	2.3	100.0
合計	1626	100.0	
無回答	10		
合計	1636		

年齢を確認すると、70代が最も多く22.9%を占めており、60代の20.2%、50代の14.1%が続いて多く回答していました。山口市民の実際の年齢分布よりも高齢層の割合が高くなっています。

問4 あなたの職業は、次のうちのどれですか。兼業されている方は、主なもの2つに○印をつけ、そのうち「主な職業」の番号をご記入ください。

職業		
会社員	度数	268
	%	16.6
自営業	度数	93
	%	5.8
農林水産業	度数	52
	%	3.2
団体職員	度数	52
	%	3.2
専門職（医者、教員など資格や免許の必要な専門的な仕事）	度数	110
	%	6.8
公務員（4、5を除く）	度数	82
	%	5.1
パート勤務	度数	211
	%	13.1
学生	度数	48
	%	3.0
専業主婦	度数	350
	%	21.7
現在収入のある仕事に就いていない方	度数	339
	%	21.0
その他	度数	42
	%	2.6

回答者の職業を確認すると、「専業主婦」を選択した人が最も多く 21.7%でした。現在収入のある仕事に就いていない方の 21.0%、「会社員」の 16.6%、「パート勤務」の 13.1%がそれに続く結果となりました。

主な職業		
	度数	有効パーセント
会社員	2	18.2
自営業	1	9.1
農林水産業	1	9.1
団体職員	1	9.1
パート勤務	2	18.2
専業主婦	4	36.4
合計	11	100.0
非該当	1586	
無回答	39	
合計	1625	
合計	1636	

兼業されている方に「主な職業」を聞いたところ、「専業主婦」が最も多く 36.4%、「会社員」と「パート勤務」がともに 18.2%となりました。ただし、回答者数が少ないため、あくまで参考程度としてみておく必要があります。

問5 あなたのお住まいの地域はどちらですか。

住んでいる地域		
	度数	有効パーセント
大殿	66	4.1
白石	90	5.5
湯田	115	7.1
仁保	35	2.2
小鯖	39	2.4
大内	195	12.0
宮野	120	7.4
吉敷	106	6.5
平川	109	6.7
大蔵	82	5.1
陶	20	1.2
鑄銭司	34	2.1
名田島	15	0.9
秋穂二島	28	1.7
嘉川	66	4.1
佐山	32	2.0
小郡	186	11.5
秋穂	59	3.6
阿知須	85	5.2
出雲	32	2.0
島地	20	1.2
八坂	11	0.7
柚野	3	0.2
串	6	0.4
篠生	9	0.6
生雲	12	0.7
地福	15	0.9
徳佐	28	1.7
嘉年	4	0.2
合計	1622	100.0
無回答	14	
合計	1636	

居住地を確認したところ、「大内」が最も多く 12.0%を占めることがわかりました。さらに、「小郡」が 11.5%、「宮野」が 7.4%、「湯田」が 7.1%、「平川」が 6.7%で続く結果となりました。

問6 あなたのお住まいは次のどれになりますか。

居住形態			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
一戸建て（持ち家）	1258	77.7	77.7
一戸建て（借家）	55	3.4	81.0
マンション（持ち家）	80	4.9	86.0
マンション・アパート（借家）	203	12.5	98.5
その他	24	1.5	100.0
合計	1620	100.0	
無回答	16		
合計	1636		

居住形態について確認したところ、「一戸建て（持ち家）」が最も多く77.7%であることがわかりました。それに「マンション・アパート（借家）」の12.5%、「マンション（持ち家）」の4.9%が続く結果となりました。

問7 あなたは、山口市でずっと暮らしてこられましたか。※この問の山口市は、現在の山口市としてお答え下さい。例：旧阿東町から旧山口市に転居した場合、回答は「1」になります。

居住歴			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
山口市生まれで、ずっと山口市で暮らしている	448	27.8	27.8
山口市外の生まれだが、子どもの時からずっと住んでいる	75	4.7	32.5
山口市外の生まれだが、転居してきた	467	29.0	61.5
山口市外の生まれだが、結婚をきっかけに転居してきた	275	17.1	78.6
学校や就職で2年以上山口市外に出たが、山口市に戻ってきた（Uターンしてきた）	289	18.0	96.6
その他	55	3.4	100.0
合計	1609	100.0	
無回答	27		
合計	1636		

居住歴を尋ねたところ、「山口市外の生まれだが、転居してきた」を選択した回答者が最も多く3割弱（29.0%）であることがわかりました。それに次いで「山口市生まれで、ずっと山口市で暮らしている」を選択した回答者（27.8%）が多くなりました。また、「学校や就職で2年以上山口市外に出たが、山口市に戻ってきた（Uターンしてきた）」人が2割弱（18.0%）いることもわかりました。

定住層（「山口市生まれで、ずっと山口市で暮らしている」、「山口市外の生まれだが、子どもの時からずっと住んでいる」）の割合は3割強（32.5%）で、Uターン層は2割弱（18.0%）であり、あわせて5割（50.5%）程度でした。一方で、来住層（「山口市外の生まれだが、転居してきた」、「山口市外の生まれだが、結婚をきっかけに転居してきた」）の割合は5割弱（46.1%）となっています。2017年調査（Uターン層を含む定住層49.1%、来住層47.7%）と比較しても大きな変化はありませんでした。

問8 あなたの家族構成は、次のどれになりますか。

家族構成			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
一人暮らし	240	14.9	14.9
あなたと配偶者のみ	553	34.4	49.4
二世世代家族（あなたが親世代）	498	31.0	80.4
二世世代家族（あなたが子世代）	179	11.1	91.5
三世世代家族（あなたが一番上の世代）	42	2.6	94.1
三世世代家族（あなたがまん中の世代）	53	3.3	97.4
三世世代家族（あなたが一番下の世代）	15	0.9	98.4
その他	26	1.6	100.0
合計	1606	100.0	
無回答	30		
合計	1636		

家族構成を確認したところ、「あなたと配偶者のみ」が最も多く 34.4%を占めており、「二世世代家族（あなたが親世代）」の 31.0%、「一人暮らし」の 14.0%が続く結果となりました。「三世世代家族」は、回答者の属する世代別の3つの選択肢を合計しても 6.8%であり、少数であることがわかりました。

一人暮らし (14.9%)、あなたと配偶者のみ (夫婦のみ) (34.4%) で暮らす世帯は5割弱 (計 49.3%) となり、2017年調査 (46.0%) とほぼ同じ割合でした。

問9 あなたには、小学校に入る前の年齢のお子さんがいらっしゃいますか。

小学校入学前の子どもの有無			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
いる	136	8.4	8.4
いない	1477	91.6	100.0
合計	1613	100.0	
無回答	23		
合計	1636		

小学校入学前の子どもの有無を確認したところ、「いない」と回答した人が9割以上 (91.6%) を占めており、小学校に入る前の子どものいる回答者はごく少数であることがわかりました。

問10 あなたは、65歳以上の方と同居されていますか。

65歳以上の方との同居			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
している	674	41.9	41.9
していない	933	58.1	100.0
合計	1607	100.0	
無回答	29		
合計	1636		

65歳以上の方との同居を確認すると、同居「している」とした人が41.9%、同居「していない」とした人が58.1%という結果となりました。約4割の回答者が65歳以上の方と同居していることがわかりました。

問11 あなたの健康状態はいかがですか。

健康状態			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
非常に健康だと思う	133	8.2	8.2
健康な方だと思う	931	57.6	65.8
どちらともいえない	267	16.5	82.3
あまり健康ではない	203	12.6	94.9
健康ではない	83	5.1	100.0
合計	1617	100.0	
無回答	19		
合計	1636		

健康状態について尋ねたところ、健康である（「非常に健康だと思う」と「健康な方だと思う」との合計）とした回答者が約6割半(65.8%)を占めました。「どちらともいえない」という回答は16.5%でした。健康ではない（「あまり健康ではない」と「健康ではない」との合計）と感じている人は17.7%でした。

問12 あなたは、現在の暮らしの状況を経済的にどう感じていますか。

経済状況			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
ゆとりがある	76	4.7	4.7
ややゆとりがある	187	11.6	16.3
普通	976	60.4	76.6
やや苦しい	279	17.3	93.9
苦しい	99	6.1	100.0
合計	1617	100.0	
無回答	19		
合計	1636		

現在の経済的な暮らしの状況について尋ねたところ、約6割の人が「普通」（60.4%）と回答しました。経済的に苦しい（「やや苦しい」と「苦しい」との合計）と感じている人は2割強（23.4%）という結果となり、ゆとりがある（「ゆとりがある」と「ややゆとりがある」との合計）と感じている人の割合（16.3%）を上回りました。

問 13 あなたは、家族に対して介護や手のかかるお世話を行ったことがありますか。

介護やてのかかるお世話の経験			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
現在している	178	11.1	11.1
過去にしたことがある	634	39.5	50.6
したことがない	793	49.4	100.0
合計	1605	100.0	
無回答	31		
合計	1636		

介護経験層としての介護や手のかかるお世話をしたことがある人（「現在している」と「過去にしたことがある」人との合計）が約半数（50.6%）、「したことがない」人も約半数（49.4%）という結果となりました。

介護経験層の割合（50.6%）は、2017年調査（46.0%）よりもわずかに増加していますが、ほぼ同じ割合となりました。

問 14 あなたは、「地域」という言葉を聞いたとき、最初に思い浮かべる「地域」の範囲は次のどれになりますか。

思い浮かべる「地域」の範囲			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
山口市全域	274	17.2	17.2
山口、小郡、秋穂、阿知須、徳地、阿東の各地域	409	25.7	43.0
各地域交流センター	239	15.0	58.0
小学校区	188	11.8	69.9
町内会・自治会	454	28.6	98.4
班・組	16	1.0	99.4
その他	9	0.6	100.0
合計	1589	100.0	
無回答	47		
合計	1636		

「地域」という言葉を聞いて最初に思い浮かべる範囲としては、「町内会・自治会」（28.6%）と「山口、小郡、秋穂、阿知須、徳地、阿東の各地域」（25.7%）が特に多い回答となりました。「山口市全域」（17.2%）、「各地域交流センター」（15.0%）、「小学校区」（11.8%）との回答も1割台で存在し、全体的に回答が分散しました。

支持を集めた順序は前回2017年調査と同じとなり、割合もほぼ同程度でした。

問15 あなたは、地域の支え合い活動（ご近所で困ったときに協力し合ったり、助け合ったりすること）を進めることを考えたときに、最初に思い浮かべる地域の範囲は次のどれになりますか。

地域の支え合い活動で思い浮かべる地域の範囲			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
山口市全域	114	7.3	7.3
山口、小郡、秋穂、阿知須、徳地、阿東の各地域	175	11.2	18.5
各地域交流センター	166	10.6	29.1
小学校区	98	6.3	35.4
町内会・自治会	851	54.4	89.8
班・組	148	9.5	99.2
その他	12	0.8	100.0
合計	1564	100.0	
無回答	72		
合計	1636		

地域の支え合い活動を進める場の範囲として、約半数（54.4%）の人が「町内会・自治会」を思い浮かべていることが明らかとなりました。続いて回答が多かった地域の範囲は「山口、小郡、秋穂、阿知須、徳地、阿東の各地域」（11.2%）、「各地域交流センター」（10.6%）、「班・組」（9.5%）といった順になり、いずれも約1割前後に留まる結果となりました。問14の地域という言葉から思い浮かべる地域と比較すると、「町内会・自治会」の割合が高くなり、より支持が集まっていることがわかります。

「地域」から最初に思い浮かべる範囲

- 1) 町内会・自治会 (28.6%)
- 2) 合併前の旧市町 (25.7%)
- 3) 山口市全域 (17.2%)
- 4) 各地域交流センター (15.0%)

支え合い活動の地域

- 1) 町内会・自治会 (54.4%)
- 2) 合併前の旧市町 (11.2%)
- 3) 各地域交流センター (10.6%)
- 4) 班・組 (9.5%)

問16 あなたは、隣近所の方とどの程度のお付き合いをしていますか。

隣近所の方との付き合いの程度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
いつも親しくつき合っている隣近所の人がある	369	23.3	23.3
留守にするときには、用が頼める隣近所の人がある	188	11.9	35.2
顔を合わせればあいさつする程度の付き合いしかない	879	55.5	90.7
隣近所の人顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない	49	3.1	93.8
隣近所の人ほとんど顔も知らない	87	5.5	99.2
その他	12	0.8	100.0
合計	1584	100.0	
無回答	52		
合計	1636		

隣近所の方との付き合いについて、「顔を合わせればあいさつする程度の付き合いしかない」人が約半数（55.5%）で最多となり、前回2017年調査（49.9%）から、わずかに増加しました。続いて「いつも親しくつき合っている隣近所の人がある」人が約2割（23.3%）となり、「留守にするときには、用が頼める隣近所の人がある」人が約1割（11.9%）となりました。親しく安定した近隣関係がある回答者の割合は3割強（35.2%）であり、前回2017年調査（38.5%）からわずかに減少しましたが、ほぼ同じ割合でした。

「隣近所の人顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない」（3.1%）、「隣近所の人ほとんど顔も知らない」（5.5%）といった、近所付き合いの少ない回答者はわずかでした（計8.6%）。

問 17 あなたは、新型コロナウイルス感染症拡大以降、町内の行事や活動に参加されていますか。

コロナ以降の町内行事や活動への参加			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
いつも参加している	174	10.8	10.8
時々参加している	275	17.0	27.8
あまり参加していない	336	20.8	48.6
参加していない	830	51.4	100.0
合計	1615	100.0	
無回答	21		
合計	1636		

新型コロナウイルス感染症拡大以降、町内の行事や活動への参加層（「いつも参加している」と「時々参加している」との合計）は3割弱（27.8%）となり、不参加層（「あまり参加していない」と「参加していない」との合計）が約7割（72.2%）を超える結果となりました。

前回2017年調査では、参加層の割合は5割（54.1%）を超え、不参加層の割合は約4割（44.1%）でしたので、参加層の割合が大幅に減少したことがわかります。

問 18 あなたは、町内や地域内のどのような行事や活動に参加したいと思われますか。（○はいくつでも）

町内や地域内の参加したい行事や活動		
	度数	
町内のお祭りや運動会などの行事	442	
	%	27.6
空き缶の回収や清掃などの環境美化活動	505	
	%	31.6
福祉施設への訪問などの福祉活動	75	
	%	4.7
子ども会や老人クラブなど地域内での団体活動や行事	200	
	%	12.5
趣味やスポーツなどのサークルでの活動	314	
	%	19.6
地域交流センターなどの市の施設の教室や行事	304	
	%	19.0
その他	55	
	%	3.4
特に何もしたくない	499	
	%	31.2

参加したい町内や地域内の行事や活動について尋ねたところ、「空き缶の回収や清掃などの環境美化活動」（31.6%）と「町内のお祭りや運動会などの行事」（27.6%）が多くの支持を集めました。こうした傾向は前回2017年調査と大きな変化はありませんでした。また、他の行事や活動においては、参加したいと思う人はいずれの項目でも2割以下と低調な結果にとどまりました。

また、「特に何もしたくない」と感じている人が3割（31.2%）を超えることが明らかになりました。過去の調査と比較すると増加傾向にあり、注意が必要です（2002年調査15.6%→2008年調査22.9%→2013年調査27.3%→2017年調査24.8%）。

問19 あなたは、近所の子どもたちに気を配ったり、声をかけたりすることがありますか。

近所子どもとの関わり			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
頻繁にしている	136	8.5	8.5
時々している	608	38.0	46.5
あまりしていない	524	32.8	79.3
まったくしていない	332	20.8	100.0
合計	1600	100.0	
無回答	36		
合計	1636		

近所の子どもたちに気を配ったり、声をかけたりしている人（「頻繁にしている」と「時々している」との合計）は46.5%、していない人（「あまりしていない」と「まったくしていない」との合計）は53.6%と、約半数ずつに分かれる結果となりました。

問20 あなたは、住んでいる地域の生活環境について、どう思われますか。（各項目○はひとつ）
※ここでいう地域とは、現在お住まいの問5に示した市内29地域としてお考えください。

住んでいる地域の生活環境							
		良い	まあ良い	やや悪い	悪い	合計	無回答
交通手段	度数	265	533	405	379	1582	54
	%	16.8	33.7	25.6	24.0	100.0	
買い物の便利さ	度数	400	642	315	223	1580	56
	%	25.3	40.6	19.9	14.1	100.0	
病院や薬局が近くにあること	度数	424	678	272	194	1568	68
	%	27.0	43.2	17.3	12.4	100.0	
教育機関が多い	度数	230	717	368	194	1509	127
	%	15.2	47.5	24.4	12.9	100.0	
趣味やスポーツ・文化を楽しむ機会	度数	131	615	520	247	1513	123
	%	8.7	40.6	34.4	16.3	100.0	
老人ホームや介護施設などの充実	度数	121	761	466	152	1500	136
	%	8.1	50.7	31.1	10.1	100.0	
子どもを育てる環境	度数	228	968	232	87	1515	121
	%	15.0	63.9	15.3	5.7	100.0	
全体的にみた地域の住み心地	度数	265	1005	233	69	1572	64
	%	16.9	63.9	14.8	4.4	100.0	

住んでいる地域の生活環境について、「趣味やスポーツ・文化を楽しむ機会」以外の全ての項目で、良い（「良い」と「まあ良い」との合計）という回答が、悪い（「やや悪い」と「悪い」との合計）という回答を上回りました。特に、「子どもを育てる環境」と「全体的にみた地域の住み心地」については良いという回答が約8割（それぞれ78.9%、80.8%）にのぼりました。他方、「老人ホームや介護施設などの充実」では、「良い」という積極的な評価が低い（8.1%）ことや、「交通手段」では良い（「良い」と「まあ良い」との合計）（50.5%）という評価と、悪い（「やや悪い」と「悪い」との合計）（49.6%）という評価が拮抗していることが明らかになりました。

「全体的にみた地域の住み心地」に満足している回答者の割合は、8割（80.8%）を超えており、過去の調査と同様に高い満足感は維持されています（2002年調査83.6%→2008年調査83.1%→2013年調査81.6%→2017年調査77.7%）。

問21 あなたは、次のような考えについて、どのようにお考えですか。(各項目○はひとつ)
 ※ここでいう地域とは、現在お住まいの問5に示した市内29地域としてお考えください。

		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	無回答
住んでいる地域が好きだ	度数	433	909	183	51	1576	60
	%	27.5	57.7	11.6	3.2	100.0	
地域のまとまりは良いほうだ	度数	149	877	451	82	1559	77
	%	9.6	56.3	28.9	5.3	100.0	
地域のために何か役に立ちたい	度数	177	821	432	114	1544	92
	%	11.5	53.2	28.0	7.4	100.0	
近所付き合いは面倒だと思う	度数	128	493	681	260	1562	74
	%	8.2	31.6	43.6	16.6	100.0	
お年寄りにとって住みやすい地域だ	度数	113	719	534	206	1572	64
	%	7.2	45.7	34.0	13.1	100.0	
障がいのある方にとって住みやすい地域だ	度数	51	437	732	320	1540	96
	%	3.3	28.4	47.5	20.8	100.0	
生活の場としてだんだん良くなる地域だ	度数	111	566	583	284	1544	92
	%	7.2	36.7	37.8	18.4	100.0	
生きがいがある	度数	126	668	572	180	1546	90
	%	8.2	43.2	37.0	11.6	100.0	
いまの生活に満足している	度数	196	944	322	101	1563	73
	%	12.5	60.4	20.6	6.5	100.0	
子どもや孫にも、山口市に住んで欲しい	度数	310	682	385	158	1535	101
	%	20.2	44.4	25.1	10.3	100.0	
今後も山口市に住み続けたい	度数	509	800	192	75	1576	60
	%	32.3	50.8	12.2	4.8	100.0	

地域に対する意識を確認したところ、「住んでいる地域が好きだ」という地域への愛着を持つ回答者の割合（「そう思う」、「まあそう思う」との合計）が、もっとも大きくなり8割（85.2%）を超えています。また、「今後も山口市に住み続けたい」という永住意思の高い回答者も8割（83.1%）を超えました。「いまの生活に満足している」という生活満足度の高い回答者も7割（72.9%）を超えています。「地域のまとまりは良いほうだ」という地域への連帯意識を持つ回答者の割合は、約6割半（65.8%）となりました。「地域のために何か役に立ちたい」という地域への貢献意識を持つ回答者も約6割半（64.6%）を占めています。「子どもや孫にも、山口市に住んで欲しい」という回答者も約6割半（64.6%）となっています。「近所付き合いは面倒だと思う」という意見に対して否定的な回答者（「そう思わない」、「あまりそう思わない」との合計）は、約6割（60.2%）となりました。

一方、地域の将来展望を示す「生活の場としてだんだん良くなる地域だ」という意見に対しては、否定的な層（「そう思わない」、「あまりそう思わない」との合計）が半数（56.2%）を超えています。

過去の調査と比較すると、愛着度（2008年調査 計81.4%→2013年調査 計81.8%→2017年調査 計79.2%）、永住意思（2008年調査 計82.9%→2013年調査 計80.7%→2017年調査 計77.2%）、楽観できない将来展望（2008年調査 計53.7%→2013年調査 計56.1%→2017年調査 計52.5%）となり、愛着度や永住意思を持つ人の割合がわずかに増えていますが大きな変化はありませんでした。

地域のために何か役に立ちたいという貢献意欲を持つ回答者の割合は6割強（計60.6%）となり、過去の調査と比較しても（2002年調査 計60.9%→2008年調査 計62.8%→2013年調査 計63.8%→2017年調査 計60.6%）とほとんど変化はありませんでした。

また、「お年寄りにとって住みやすい地域だ」という回答者（「そう思う」と「まあそう思う」との合計）が5割強（52.9%）であるのに対し、「障がいのある方にとって住みやすい地域だ」という回答者は3割強（31.7%）に留まりました。

問22 新型コロナウイルス感染症拡大以降、全体としてあなたの暮らしはどう変化しましたか。

新型コロナウイルス感染症拡大以降の暮らしの変化			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
悪くなった	197	12.4	12.4
どちらかといえば悪くなった	575	36.3	48.7
変わらない	746	47.1	95.8
どちらかといえば良くなった	19	1.2	97.0
良くなった	6	0.4	97.4
わからない	41	2.6	100.0
合計	1584	100.0	
無回答	52		
合計	1636		

新型コロナウイルス感染症拡大以降の暮らしの変化について尋ねると、悪化層（「悪くなった」、「どちらかといえば悪くなった」との合計）が5割弱（48.7%）を占めました。一方、「変わらない」という回答者も5割弱（47.1%）存在しました。

問23 あなたには、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う不安や悩みごとがありましたか。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う不安や悩みごとの有無			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
あった	956	61.4	61.4
なかった	600	38.6	100.0
合計	1556	100.0	
無回答	80		
合計	1636		

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う不安や悩みごとの有無について尋ねたところ、「あった」という回答者が6割を超えました（61.4%）。

付問 23-1 問 23 で「1. あった」と回答した方にお尋ねします。その不安や悩みごとを誰に相談しましたか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う不安や悩みごとの相談相手		
家族や親せき	度数	724
	%	76.1
友人や先輩、知人	度数	379
	%	39.9
職場の上司、同僚	度数	227
	%	23.9
近所の人	度数	151
	%	15.9
かかりつけの医者	度数	161
	%	16.9
ボランティア、ボランティア団体	度数	13
	%	1.4
行政（県や市の相談機関）	度数	22
	%	2.3
市社協（市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会）	度数	4
	%	0.4
事業所等（居宅介護支援事業所、相談支援事業所、福祉施設等）	度数	16
	%	1.7
民生委員・児童委員	度数	17
	%	1.8
福祉員	度数	10
	%	1.1
相談できる相手がいなかった	度数	40
	%	4.2
その他	度数	30
	%	2.9

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う不安や悩みごとが「あった」という回答者に、その相談相手を尋ねました。最も多くの回答者が選んだのは、「家族や親せき」(76.1%)であり、次いで、「友人や先輩、知人」(39.9%)、「職場の上司、同僚」(23.9%)の順でした。家族や友人といったインフォーマルな関係にある相手に対して、相談が行われたことがわかります。

一方で、「市社協（市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会）」(0.4%)、「事業所等（居宅介護支援事業所、相談支援事業所、福祉施設等）」(1.7%)といった福祉専門機関を選んだ人は少数に留まりました。

問24 あなたは、お年寄りの話し相手や介護、障がい者の手助けや手話、点訳などの福祉関係のボランティア活動に参加してみたいと思いますか。

福祉関係のボランティア活動への参加意欲			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
すでに参加している	62	4.1	4.1
ぜひ参加してみたい	30	2.0	6.1
きっかけがあれば、参加してみたい	547	36.1	42.1
興味や関心がない	351	23.1	65.3
わからない	527	34.7	100.0
合計	1517	100.0	
無回答	119		
合計	1636		

「お年寄りの話し相手や介護、障がい者の手助けや手話、点訳などの福祉関係のボランティア活動」への参加に限定して尋ねたところ、「すでに参加している」という回答者は4.1%にとどまりました。一方、現在参加していないが参加を希望する人（「ぜひ参加してみたい」、「きっかけがあれば、参加してみたい」との合計）は、4割弱（38.1%）を占めました。このことから、参加を希望する人を呼び込むための工夫が求められることがわかります。また、「わからない」という回答者も3割強（34.7%）認められました。

これらの傾向は前回2017年調査と同様であり、大きな変化はありませんでした。

付問24-1 問24で「2~5」と答えられた方にお聞きします。現在、問24のような活動をされていない原因や理由がございませうか。（○はいくつでも）

福祉関係のボランティア活動に参加していない原因や理由		
	度数	
仕事や家事が忙しい	584	
		42.9
小さな子どもや介護を必要とする家族がいる	185	
		13.6
健康に自信がない	324	
		23.8
身近に活動グループや仲間がいないなど、参加のきっかけがつかめない	327	
		24.0
興味の持てる活動が少ない	197	
		14.5
情報がない・少ない	377	
		27.7
そのような活動は本来行政がやるべきだと思う	67	
		4.9
その他	115	
		8.3

福祉関係のボランティア活動に参加していない人に、その原因や理由を尋ねたところ、最も多くの回答者が選んだのは、「仕事や家事が忙しい」（42.9%）でした。次いで、「情報がない・少ない」（27.7%）、「身近に活動グループや仲間がいないなど、参加のきっかけがつかめない」（24.0%）、「健康に自信がない」（23.8%）の順でした。このことから、「時間の確保」、「情報提供」、「仲間づくり・きっかけづくり」が重要であるということがわかります。

問25 あなたは、「山口市社会福祉協議会」をご存知ですか。

山口市社会福祉協議会の認知度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
名前も活動内容もほとんど知っている	351	21.8	21.8
名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない	1024	63.7	85.5
名前も活動内容も知らない	233	14.5	100.0
合計	1608	100.0	
無回答	28		
合計	1636		

山口市社会福祉協議会の認知度（「名前も活動内容もほとんど知っている」、「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」との合計）は、約8割強（計85.5%）に達しています。しかし、「名前も活動内容もほとんど知っている」という回答者は約2割（21.8%）に留まっています。

認知度を過去の調査と比較すると、2013年調査、2017年調査より増加し、2008年調査の水準に戻ってきたことがわかります（2008年調査82.0%→2013年調査80.9%→2017年調査75.2%→2017年調査75.2%）。

付問25-1 問25で「1」または「2」と答えられた方にお聞きします。山口市社会福祉協議会は今後どのような活動に重点をおいて活動を進めるべきだと思われますか。（○は3つまで ※1つでも2つでも構いません。）

山口市社会福祉協議会が重点を置くべきだと思う活動		
	度数	%
地域でのふれあい・助け合いを進める活動	550	43.5
在宅で健やかに生活することを支援する活動	536	42.4
生活や福祉に関わる相談活動	504	39.8
ボランティアの皆さんを応援する活動	211	16.7
児童・生徒・学生・社会人の皆さんの福祉体験を応援する活動	176	13.9
福祉情報を皆さんに広く伝える活動	224	17.7
経済的に困っている方の生活費用等を貸付する活動	164	13.0
福祉活動の財源を募集し、地域の福祉活動に配分する活動	107	8.5
災害時ボランティア活動	198	15.7
その他	27	2.1

山口市社会福祉協議会が今後重点をおいて進めるべき活動としては、「地域でのふれあい・助け合いを進める活動」（43.5%）、「在宅で健やかに生活することを支援する活動」（42.4%）、「生活や福祉に関わる相談活動」（39.8%）が多くの支持を集めました。前回調査と比較しても、その順位、割合とも大きな変化はありませんでした。一方、「福祉活動の財源を募集し、地域の福祉活動に配分する活動」（8.5%）、「経済的に困っている方の生活費用等を貸付する活動」（13.0%）、「児童・生徒・学生・社会人の皆さんの福祉体験を応援する活動」（13.9%）はあまり支持を得ませんでした。

付問 25-2 問 25 で「1」または「2」と答えられた方にお聞きします。今後、山口市社会福祉協議会に進めて欲しい活動がございましたら、ご自由にご記入ください。

*別途掲載

問 26 あなたは、2カ月に1回（奇数月）市内の各世帯へお配りしている山口市社会福祉協議会の広報紙「こちら社協です」をご存知ですか。

山口市社会福祉協議会広報紙「こちら社協です」の認知度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
知っており、どの記事もよく読んでいる	305	19.2	19.2
知っているが、興味がある記事だけを読んでいる	646	40.7	59.9
知っているが、ほとんど読んでいない	371	23.4	83.3
知らない	265	16.7	100.0
合計	1587	100.0	
無回答	49		
合計	1636		

山口市社会福祉協議会の広報誌「こちら社協です」の認知度（「知っており、どの記事もよく読んでいる」、「知っているが、興味がある記事だけを読んでいる」との合計）は、約6割（59.9%）となりました。前回調査では、認知度は5割強（54.6%）でしたので、わずかに増加していることがわかります。

一方、「知っているが、ほとんど読んでいない」という回答者が2割強（23.4%）を占め、広報誌を読みたいと思わせるような工夫が必要であることがうかがわれます。

問 27 小地域ごとに「地区社会福祉協議会」という団体があります。あなたは、ご自分の地域の「〇〇地区社会福祉協議会」をご存知ですか。

自分の地域の「〇〇地区社会福祉協議会」の認知度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
名前も活動内容もほとんど知っている	262	16.6	16.6
名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない	881	55.7	72.3
名前も活動内容も知らない	438	27.7	100.0
合計	1581	100.0	
無回答	55		
合計	1636		

自分の地域の「〇〇地区社会福祉協議会」の認知度（「名前も活動内容もほとんど知っている」、「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」との合計）は、7割強（72.3%）に達しています。しかし、「名前も活動内容もほとんど知っている」という回答者は2割弱（16.6%）に留まっています。認知度は市社協の約8割強（計85.5%）に比較して低いものとなりましたが、過去の調査と比較すると、認知度は上昇傾向にあるといえます（2013年調査 60.4%→2017年調査 65.5%）。

付問 27-1 問 27 で「1」または「2」と答えられた方にお聞きします。〇〇地区社会福祉協議会は、今後どのような活動に重点をおいて活動を進めるべきだと思われますか。(〇は3つまで ※1つでも2つでも構いません。)

〇〇地区社会福祉協議会が重点を置くべきだと思う活動		
地域でのふれあい・助け合いを進める活動	度数	620
	%	58.1
在宅で健やかに生活することを支援する活動	度数	507
	%	47.5
生活や福祉に関わる相談活動	度数	421
	%	39.5
ボランティアの皆さんを応援する活動	度数	164
	%	15.4
児童・生徒・学生・社会人の皆さんの福祉体験を応援する活動	度数	116
	%	10.9
福祉情報を皆さんに広く伝える活動	度数	162
	%	15.2
福祉活動の財源を募集し、地域の福祉活動に配分する活動	度数	59
	%	5.5
その他	度数	21
	%	1.8

〇〇地区社会福祉協議会が今後重点をおいて進めるべき活動としては、「地域でのふれあい・助け合いを進める活動」(58.1%)が最も多くの支持を集めました。次いで、「在宅で健やかに生活することを支援する活動」(47.5%)、「生活や福祉に関わる相談活動」(39.5%)となりました。前回調査と比較しても、その順位、割合とも大きな変化はありませんでした。

問 28 あなたは、「民生委員・児童委員」について、どの程度ご存知ですか。

民生委員・児童委員の認知度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
民生委員・児童委員という名称も、その活動内容も知っている	455	28.8	28.8
民生委員・児童委員という名称は知っているが、その活動内容はよく知らない	990	62.7	91.5
民生委員・児童委員という名称も、その活動内容も知らない	134	8.5	100.0
合計	1579	100.0	
無回答	57		
合計	1636		

民生委員・児童委員の認知度（「民生委員・児童委員という名称も、その活動内容も知っている」、「民生委員・児童委員という名称は知っているが、その活動内容はよく知らない」との合計）は、9割（計 91.5%）を超える高い割合となりました。しかし、「民生委員・児童委員という名称も、その活動内容も知っている」という回答者は3割弱（28.8%）に留まっています。

付問 28-1 問 28 で「1」または「2」と答えられた方にお聞きします。あなたは、ご自分の区域を担当されている「民生委員・児童委員」の方をご存知ですか。

自分の区域担当の民生委員・児童委員の認知度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
知っている	607	43.0	43.0
知らない	803	57.0	100.0
合計	1410	100.0	
無回答	226		
合計	1636		

自分の区域を担当する民生委員・児童委員の認知度は4割強（43.0%）に留まり、「知らない」という回答者の割合を下回りました。前回調査と比較しても、大きな変化はありませんでした。

問 29 あなたは、「福祉員」について、どの程度ご存知ですか。

福祉員の認知度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
福祉員という名称も、その活動内容も知っている	250	15.9	15.9
福祉員という名称は知っているが、その活動内容はよく知らない	718	45.8	61.7
福祉員という名称も、その活動内容も知らない	600	38.3	100.0
合計	1568	100.0	
無回答	68		
合計	1636		

福祉員の認知度（「福祉員という名称も、その活動内容も知っている」、「福祉員という名称は知っているが、その活動内容はよく知らない」との合計）は、6割強（61.7%）となりました。しかし、「福祉員という名称も、その活動内容も知っている」という回答者は、約1割半（15.9%）に留まっています。前回調査と比較すると、認知度はわずかに上昇しました（2017年調査57.0%）。

付問 29-1 問 29 で「1」または「2」と答えられた方にお聞きします。あなたは、ご自分の区域を担当されている「福祉員」の方をご存知ですか。

自分の区域担当の福祉員の認知度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
知っている	417	43.6	43.6
知らない	540	56.4	100.0
合計	957	100.0	
無回答	679		
合計	1636		

自分の区域を担当する福祉員の認知度は4割強（43.6%）に留まり、「知らない」という回答者の割合を下回りました。前回調査と比較しても、大きな変化はありませんでした。

問30 あなたは現在、介護保険、保育所、定期健康診断などの福祉や保健の各種サービスを利用されていますか。

福祉や保健の各種サービスの利用状況			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
頻繁に利用している	142	9.0	9.0
たまに利用している	283	18.0	27.1
ほとんど利用していない	321	20.4	47.5
全く利用していない	710	45.2	92.7
どんなサービスがあるか分からない	105	6.7	99.4
その他	10	0.6	100.0
合計	1571	100.0	
無回答	65		
合計	1636		

福祉や保健の各種サービスの利用状況について尋ねると、利用者層（「頻繁に利用している」、「たまに利用している」との合計）は3割弱（27.0%）に留まり、非利用者層（「全く利用していない」、「ほとんど利用していない」との合計）が約6割半（65.6%）を占めました。また、「どんなサービスがあるか分からない」という回答者（6.7%）もわずかですが認められました。なお、利用者層は、有効パーセントの合計としては27.0%となりますが、正確な値の合計を四捨五入した累積パーセントでは27.1%となります。

付問30-1 問30で「1」または「2」と答えられた方にお聞きします。あなたはこれまでに、こうした福祉や保健のサービスの利用について、どなたかに相談されたことがありますか。

福祉や保健のサービスの利用についての相談経験			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
ある	161	38.9	38.9
ない	253	61.1	100.0
合計	414	100.0	
無回答	1222		
合計	1636		

福祉や保健のサービスの利用者層に、利用についての相談経験について尋ねたところ、「ある」という回答者は4割弱（38.9%）に留まり、「ない」という回答者の割合を下回りました。前回調査と比較しても、大きな変化はありませんでした。

付問30-2 付問30-1で「1. ある」と答えられた方にお聞きします。それは誰に相談をされましたか。
また、相談されたときの満足度はいかがでしたか。

福祉や保健のサービスの利用についての相談相手		
家族や親戚	度数	92
	%	57.1
友人や先輩、知人	度数	56
	%	34.8
近所の人	度数	33
	%	20.5
かかりつけの医者	度数	53
	%	32.9
ボランティア、ボランティア団体	度数	24
	%	14.9
行政	度数	58
	%	36.0
民生委員・児童委員	度数	27
	%	16.8
山口市社会福祉協議会	度数	27
	%	16.8
地区社会福祉協議会	度数	22
	%	13.7
福祉員	度数	25
	%	15.5
その他	度数	14
	%	8.7

福祉や保健のサービスの利用について相談したときの満足度					
		満足	まあ満足	やや不満	不満
家族や親戚	度数	28	58	6	0
	%	30.4	63.0	6.5	0.0
友人や先輩、知人	度数	12	37	7	0
	%	21.4	66.1	12.5	0.0
近所の人	度数	4	23	4	2
	%	12.1	69.7	12.1	6.1
かかりつけの医者	度数	22	26	5	0
	%	41.5	49.1	9.4	0.0
ボランティア、ボランティア団体	度数	2	13	7	2
	%	8.3	54.2	29.2	8.3
行政	度数	18	30	7	3
	%	31.0	51.7	12.1	5.2
民生委員・児童委員	度数	4	13	8	2
	%	14.8	48.1	29.6	7.4
山口市社会福祉協議会	度数	5	15	5	2
	%	18.5	55.6	18.5	7.4
地区社会福祉協議会	度数	4	13	4	1
	%	18.2	59.1	18.2	4.5
福祉員	度数	6	9	9	1
	%	24.0	36.0	36.0	4.0
その他	度数	5	9	0	0
	%	35.7	64.3	0.0	0.0

福祉や保健のサービスの利用についての相談経験がある人に、その相談相手と、相談した際の満足度について尋ねたところ、相談相手として最も多くの回答者が選んだのは「家族や親戚」(57.1%)で、次いで「行政」(36.0%)、「友人や先輩、知人」(34.8%)、「かかりつけの医者」(32.9%)が挙げられました。

満足度については、満足層(「満足」、「まあ満足」との合計)は、「その他」を除くと、「家族や親戚」(93.5%)で最も多く、次いで「かかりつけの医者」(90.6%)、「友人や先輩、知人」(87.5%)、行政(82.8%)の順でした。

一方、これらと比較すると、相談相手として選んだ回答者は少ないものの、満足層は「近所の人」(81.8%)、「地区社会福祉協議会」(77.3%)、「山口市社会福祉協議会」(74.1%)で、いずれも7割を超えています。

問31 あなたは、山口市で障がいがある人への理解が深まってきていると思いますか。

山口市の障がいがある人への理解度			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
そう思う	73	4.7	4.7
どちらかといえば、そう思う	413	26.6	31.3
どちらとも思わない	654	42.2	73.5
どちらかといえば、そう思わない	260	16.8	90.3
そう思わない	151	9.7	100.0
合計	1551	100.0	
無回答	85		
合計	1636		

山口市における障がい者に対する理解度を質問したところ、「どちらとも思わない」が42.2%と最も多く、次いで「どちらかといえば、そう思う」(26.6%)、「どちらかといえば、そう思わない」(16.6%)の順でした。深まっていると判断(「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」との合計)した回答者の割合は、3割強(31.3%)に留まりました。この設問は、前回2017年調査から追加されましたが、前回調査でも深まっていると判断した回答者の割合は3割弱(28.7%)であり、ほとんど変化はありませんでした。

問32 今まで、あなたやご家族の方で、身体上の理由から施設や交通機関の利用を断られたり、制限されたり、自主的に遠慮されたことがありますか。

身体上の理由で施設や交通機関の利用に支障が出た経験			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
ある	58	3.8	3.8
ない	1485	96.2	100.0
合計	1543	100.0	
無回答	93		
合計	1636		

回答者のほとんどが(96.2%)、自身や家族が、身体上の理由から施設や交通機関の利用に支障があったという経験が「ない」と回答しましたが、わずかながらそれを経験している人(3.8%)も認められました。この割合は、過去の調査から大きな変化はありませんでした。

問32-1 問32で「1. ある」と答えられた方にお聞きします。どういう施設や交通機関でそういうことがありましたか。(〇はいくつでも)

身体上の理由で施設や交通機関の利用に支障が出た施設や交通機関		
レストラン、食堂などの飲食店	度数	26
	%	45.6
デパート、商店などの商業施設	度数	11
	%	19.3
遊園地、遊技場、映画館、プールなどの娯楽施設	度数	11
	%	19.3
ホテル、旅館などの宿泊施設	度数	13
	%	22.8
公園、運動場などのスポーツ施設	度数	8
	%	14.0
図書館、博物館、地域交流センターなどの文化、公共施設	度数	11
	%	19.3
学校、幼稚園、保育園、児童クラブなど	度数	5
	%	8.8
鉄道、バス、タクシーなど	度数	31
	%	54.4
その他	度数	8
	%	3.4

最も多かったのは「鉄道、バス、タクシーなど」の交通機関(54.4%)でした。次いで、「レストラン、食堂などの飲食店」(45.6%)でした。最も少なかったのは、「学校、幼稚園、保育園、児童クラブなど」(8.8%)でした。

問33 あなたは、日常生活を送る上でだれかの援助が必要なとき、家族などにみてもらう以外に次のどれを重視しますか。

他者による援助の重要度		
隣近所で互いに助け合う	度数	122
	%	7.7
ボランティアに支援してもらう	度数	26
	%	1.6
公的なサービスを利用する(介護保険等)	度数	1133
	%	71.6
公益団体、民間団体等のサービスを利用する	度数	151
	%	9.5
他人の援助は受けない	度数	43
	%	2.7
その他	度数	16
	%	1.0
分からない	度数	191
	%	12.1

日常生活における家族以外の他者による援助のなかで、どれが重要であるかを確認したところ、「公的なサービスを利用する(介護保険等)」が71.6%と最も多く、回答が集中しました。前回調査ではその割合は、6割強(65.4%)でしたので、支持が増える傾向にあることがわかります。

これ以外の「公益団体、民間団体等のサービスを利用する」、「隣近所で互いに助け合う」などは、1割を下回っており、「ボランティアに支援してもらう」が最も少ない結果となりました(1.6%)。

問34 あなたは、ご自分の老後の生活について、何か不安を感じていますか。

老後の生活についての不安			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
不安を感じる	579	36.3	36.3
少し不安を感じる	644	40.4	76.6
あまり不安は感じない	205	12.8	89.5
不安は感じない	46	2.9	92.4
考えたことがない	122	7.6	100.0
合計	1596	100.0	
無回答	40		
合計	1636		

老後の生活についての不安を確認したところ、不安を感じている人（「不安を感じる」と「少し不安を感じる」の合計）があわせて7割（76.6%）を超えるという結果になりました。この割合は前回調査から大きな変化はありませんでした。

問34-1 問34で「1」または「2」と答えられた方にお聞きします。どういった点に不安を感じていますか。（○は3つまで※1つでも2つでも構いません。）

老後の生活についての不安の内容		
	度数	%
生活費のこと	531	46.5
健康・からだのこと	791	69.3
日頃の維持管理・家の中に段差があるなど、住まいのこと	58	5.1
家族のこと	236	20.7
老後をみてくれる人がいないこと	140	12.3
近所の人や、友人、知人との関係	17	1.5
時代の変化についていけないこと	73	6.4
社会福祉の質や量が低下するのではないかということ	119	10.4
配偶者（夫または妻）に先立たれたときのこと	267	23.4
土地や家などの相続のこと	116	10.2
交通の便が悪いこと	197	17.3
買い物やしにくくなること	160	14.0
ゴミ出しやしにくくなること	67	5.9
その他	21	1.8

老後の生活の不安について、その内容を確認したところ、「健康・からだのこと」（69.3%）が最も多く、「生活費のこと」（46.5%）が次いで多い結果となりました。前回調査と大きな変化はなく、健康と生活費（経済問題）の二つの面が大きな不安の要因となっていることがわかりました。

一方で、「近所の人や、友人、知人の関係」（1.5%）、「日頃の維持管理・家の中に段差があるなど、住まいのこと」（5.1%）などは少なく、不安に思う人が少ないようでした。

問35 あなたは、老人ホームなどの福祉施設で生活することに抵抗がありますか。

福祉施設で生活することに対する抵抗感			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
抵抗がある	293	18.2	18.2
やや抵抗がある	433	27.0	45.2
あまり抵抗はない	400	24.9	70.1
抵抗はない	234	14.6	84.7
わからない	246	15.3	100.0
合計	1606	100.0	
無回答	30		
	1636		

福祉施設で生活することに対する抵抗感の有無を質問したところ、有抵抗感層（「抵抗がある」と「やや抵抗がある」の合計）の割合は、4割（45.2%）を超え、無抵抗感層（「抵抗はない」と「あまり抵抗はない」の合計）の割合（39.5%）を上回りました。前回調査では、有抵抗感層の割合は43.4%、無抵抗感層の割合は38.1%でしたので、大きな変化は見られませんでした。

問36 あなたは、ホームヘルパーや入浴サービスなどの在宅福祉サービスを利用することに抵抗がありますか。

在宅福祉サービスの利用に対する抵抗感			
	度数	有効パーセント	累積パーセント
抵抗がある	231	14.4	14.4
やや抵抗がある	465	29.0	43.4
あまり抵抗はない	429	26.7	70.1
抵抗はない	236	14.7	84.8
わからない	244	15.2	100.0
合計	1605	100.0	
無回答	31		
	1636		

在宅福祉サービスを利用することに対する抵抗感の有無を質問したところ、有抵抗感層の割合は4割（43.4%）、無抵抗感層の割合も4割（41.4%）とほぼ変わらない結果になりました。前回調査では、有抵抗感層の割合は41.0%、無抵抗感層の割合は41.3%でしたので、大きな変化は見られませんでした。

問37 ともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するために、あなたご自身の役割として、何が重要だとお考えですか。(各項目○はひとつ)

		地域づくりにおいて重要な自分の役割						
		重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	合計	無回答	
隣近所との密接な関係を持つ	度数	538	757	188	41	1524	112	
	%	35.3	49.7	12.3	2.7	100.0		
地域内でのボランティア活動に積極的に参加する	度数	233	806	356	71	1466	170	
	%	15.9	55.0	24.3	4.8	100.0		
地域内での趣味を活かした交流活動に積極的に参加する	度数	211	698	469	92	1470	166	
	%	14.4	47.5	31.9	6.3	100.0		
多様な価値観の中でお互いを尊重し合う	度数	680	656	135	26	1497	139	
	%	45.4	43.8	9.0	1.7	100.0		
地域の課題を自分に当てはめ、共有し合う	度数	354	799	271	50	1474	162	
	%	24.0	54.2	18.4	3.4	100.0		

「ともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するため」に自分自身の役割として、回答者が必要（「重要」と「やや重要」の合計）と考えている割合を確認すると、「多様な価値観の中でお互いを尊重し合う」（89.2%）と「隣近所との密接な関係を持つ」（85.0%）が、8割を超えています。また、「地域の課題を自分に当てはめ、共有し合う」（78.2%）、「地域内でのボランティア活動に積極的に参加する」（70.9%）、「地域内での趣味を活かした交流活動に積極的に参加する」（61.9%）も重要だと考えている人の割合が高くなっています。

前回調査では、「隣近所との密接な関係を持つ」（計81.6%）がもっとも高い割合となり、次いで「多様な価値観の中でお互いを尊重し合う」（計77.4%）でしたので、傾向に変化が認められます。

問38 ともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するため、あなたは社会福祉協議会や施設などの社会福祉法人にどのような役割を求めますか。(○は3つまで※1つでも2つでも構いません。)

地域づくりにおいて社会福祉法人に求める役割		
活動内容を積極的にアピールする	度数	476
	%	30.8
専門職員などの人材の確保、育成に努める	度数	495
	%	32.3
サービスの質の向上に努める	度数	359
	%	23.4
地域に開かれたサービスを行い、地域との密接な連携を図る	度数	442
	%	28.9
気軽にサービスが利用できるように努める	度数	828
	%	54.1
住民からの信頼の確保に努める	度数	270
	%	17.6
利用しやすい施設などの充実を図る	度数	527
	%	34.4
その他	度数	76
	%	5.0

「ともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するため」に社会福祉法人に対して求める役割については、「気軽にサービスが利用できるように努める」（54.1%）が最も多くなり、次いで、「利用しやすい施設などの充実を図る」（34.4%）、「活動内容を積極的にアピールする」（30.8%）などとなりました。前回調査と比較しても、その順位、割合ともに大きな変化はありませんでした。

問39 ともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するため、あなたは行政にどのような役割を求めますか。(○は3つまで※1つでも2つでも構いません。)

地域づくりにおいて行政に求める役割		
福祉活動の意義と重要性をもっとお知らせする	度数	326
	%	21.3
ボランティア活動などを行う拠点の場を確保する	度数	241
	%	15.9
福祉活動への資金的な支援をもっと行う	度数	314
	%	20.7
個人の趣味や活動を活かせる場所をもっと提供する	度数	262
	%	17.3
地域で活躍されている皆さんの連携をお手伝いする	度数	178
	%	11.8
福祉活動に携わる人の育成をする	度数	407
	%	26.9
福祉活動への相談、支援のしくみを充実していく	度数	450
	%	29.7
困っている人と、助けることのできる人をとりもつ仕組みづくりや情報の提供をする	度数	536
	%	35.4
学校教育や社会教育での福祉教育を充実していく	度数	257
	%	17.0
地域における福祉サービスの向上を図る	度数	302
	%	19.9
その他	度数	40
	%	2.6

「ともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するため」に行政に対して求める役割については、「困っている人と、助けることのできる人をとりもつ仕組みづくりや情報の提供をする」(35.4%)が最も多くなり、次いで、「福祉活動への相談、支援のしくみを充実していく」(29.7%)、「福祉活動に携わる人を育成する」(26.9%)などとなりました。これらの傾向は、過去の調査結果と大きな変化はありませんでした。

問40 最後におうかがいします。何でも結構です。ともに助け合い、支え合う地域づくりについて、ご提言がございましたら自由にご記入ください。

*別途掲載